

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870103946
法人名	有限会社 バターライフ・U
事業所名	四葉のクローバー
所在地	愛媛県松山市石風呂町甲1014-1
自己評価作成日	平成28年6月30日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年7月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

日課として散歩に取り組んでいます。天候・気候の良い日は毎日のように外へ散歩に出かけてます。車いすの方も、ご自分で歩ける方も、職員と一緒に数人がまとまって散歩されます。寝たきりにならぬように、日常の暮らしが続けられるように、私どもができることをお手伝いします。食事については栄養の偏りが起こらないように食事の献立を作っています。また、食事は皆でテーブルを囲み食事をします。独りで食事をとることが無いようにしています。医療については、それぞれの主治医と連携して適切な医療を受けることが出来るようにしています。職員は社内・社外を問わず研修に積極的に参加して、介護技術や認知症に対する知識、人間力、一般的な知識を深めるようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●松山まつりには、職員が地域の方達の連に入り一緒に踊っている。地域の盆踊り大会には、利用者と一緒に参加して、車いすの方も踊りの輪に入って楽しんだ。秋祭りには、神輿や獅子舞の訪問がある。年末の餅つき大会には、近隣の方も誘って地域の方と利用者の交流を支援している。
●昨年度は、事業所目標に接遇を採り上げ、コミュニケーション能力の向上を目指して、職員で意見を出し合い実践に取り組んだ。外部研修の場で、職員が事業所の取り組みを発表した。月1回のミーティング時には勉強会を行っており、又、県外での研修にも参加できるよう、法人が費用面でも協力してくれている。法人主催で事業所やユニット単位の食事会が年2～3回ある。
●調査訪問時、利用者が他利用者の車イスを押して、職員と一緒に散歩に出かけて行く様子が見られた。悪天候の日以外は毎日のように、ほぼ全員の方が散歩できるよう支援している。季節ごとの花見物やいちご狩り、ぶどう狩り、魚釣り等、計画を立てて、ほぼ毎月全員で出かけられるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 四葉のクローバー

(ユニット名) 1階ユニット

記入者(管理者)

氏名 濱崎 秀己

評価完了日 28年 6月 30日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) ・新しく職員が就業するときは必ず理念の考え方を説明している。 ・職員は日々の朝礼で理念を唱和することを習慣化しており、全職員が理念を共有している。 ・職員は就業時に理念カードを携帯し、実践につなげている。 (外部評価) 法人理念である「健康・愛情・幸福・希望」を額に入れて、玄関に掲示している。法人の年度目標に沿って、管理者は、事業所目標を「プロフェッショナルとしての責任を果たそう」と決めており、「常に努力していく」ことの大切さを職員に話してけん引している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) ・散歩や庭・玄関掃除の際、気軽に声を掛けて下さったり、地域祭や自治会で顔馴染みになった方もおられる。 ・地域の小学生が毎年慰問に来て下さり交流している。 ・自治会の行事やお祭りにも参加させていただいている。 (外部評価) 松山まつりには、職員が地域の方達の連に入り一緒に踊っている。地域の盆踊り大会には、利用者と一緒に参加して、車イスの方も踊りの輪に入って楽しんだ。秋祭りには、神輿や獅子舞の訪問がある。年末の餅つき大会には、近隣の方も誘って地域の方と利用者の交流を支援している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・運営推進会議に地域の方も参加して下さり、ホームでの行事や生活状況を紹介している。 ・消防署や警察署の方に講習に来ていただき、講義をしていただくとともに、認知症への理解や支援方法をお知らせするようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・利用者様の家族にも参加して頂き、行事や日々の生活の様子を映像で報告し、意見や要望を伺いサービス向上に活かしている。</p>	<p>さらに、地域のいろいろな立場の方に会議参加を働きかけ、理解・協力者を増やし、又、意見や感想等を聞きながら、さらなるサービス向上の取組みにつなげてほしい。</p>
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、自治会役員や家族の参加があり、利用者も参加することがある。会議では、利用者や活動の状況報告、行事予定や事例紹介等を行い、意見交換を行っている。時には、避難訓練を併せて行うこともある。地域からの参加者は、地域行事等の情報を教えてくれる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・運営推進会議に包括支援センターや介護保険課、社協の方にも参加して頂き、ホームの実情やケアサービスの取組みを報告している。意見交換や情報提供を通じて良い関係を作れるようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に、地域包括支援センターや市の担当者からテーマに沿って意見やアドバイスがある。小学生の体験学習の訪問が年に数回あり、専門学校、短大等の介護実習生を受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・定期的に社内研修を実施している。ユニット内では注意し合える環境作りをし、身体拘束のないようにしている。玄関は開錠しており、自由に出入りできるようにしている。拘束については止む負えない場合以外は行わないが、それについても社内規約を守り、家族との話し合いを十分行ってから行うようにしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>職員は、内部研修等で「身体拘束」について学んでいる。調査訪問時、玄関のドアは開放されており、各ユニットのドアには鈴を付け、開閉時に鳴るようにしていた。ベッドからの立ち上がり時、転倒の心配がある利用者には、畳部屋に布団を敷いて対応したり、センサーを設置して対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ・定期的に社内勉強会を実施し、資料を作成し学んでいる。入浴時にアザがないか、入居時に異変がないか確認している。言葉の虐待もないよう注意し合い虐待の防止に努めている。 ・難件は、全員の共通の課題とし、職員の精神面の負担の増加や介護負担の増加を減らすようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・ミーティングや研修で学んでいるが、現在、成年後見人制度を利用している方はおられない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) ・施設長や管理者が十分な説明を行い理解・納得を頂いている。 ・予測できることも説明するようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ・運営推進会議、ケアプラン更新時、面会時に意見や要望をお伺いしている。 ・ユニット入口に意見箱を設置し、意見や要望が出しやすい環境作りをしている。投稿された意見は必ず経営者まで伝達され、今後に生かせるようにしている。 (外部評価) 家族来訪時には、本人の様子を報告して意見や要望を聞いている。毎月、個々の担当者が日々の状況を手紙に書いて知らせている。ユニット別の季刊誌には、行事や外出の様子、職員紹介、写真を多く載せている。クリスマス会や餅つき大会等の行事時には、家族にも案内しており、エプロンを持って準備段階から参加する家族もある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ・いつでも意見を言える環境にあるが、意見箱も設けている。意見や提案はミーティング時に話し合い、意見・提案の反映に努めている。	
			(外部評価) 昨年度は、事業所目標に接遇を採り上げ、コミュニケーション能力の向上を目指して、職員で意見を出し合い実践に取り組んだ。外部研修の場で、職員が事業所の取り組みを発表した。月1回のミーティング時には勉強会を行っており、又、県外での研修にも参加できるよう、法人が費用面でも協力してくれている。法人主催で事業所やユニット単位の食事が年2～3回ある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) ・管理者が休日希望や有給を考慮しシフトを組んでいる。朝礼に施設長や管理者も参加し勤務状況を把握している。今年から新しい賃金規定も導入が検討されており、公平な評価とやりがいの感じられるような環境作りが行われている。	
			(外部評価)	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) ・法人内の研修では、年間研修予定を作り、担当者が資料を作成して、学習している。 ・法人外の研修は自由に参加できる環境にある。学んだ内容はミーティング時に報告し、情報の共有に努めている。 ・介護福祉士養成のため実務者研修の受講者には補助金を出すようにしている。	
			(外部評価)	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ・地域のGH連絡会、ケアマネ連絡会や研修で、同業者間のネットワークづくりや交流でサービス向上に努めている。相互訪問等は取り組めていないので今後、検討したい。	
			(外部評価)	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ・利用開始前に話を伺いアセスメントをとり、見学して頂いている。入居後はアセスメントをもとに気づいたことを記録し、情報を共有しケアの統一に努めている。話しやすい環境作りをし、困っていることや要望を傾聴し、安心して暮らせるよう支援している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ・入居前に困っていること、不安なこと、要望等を伺いするとともに、今後起こり得ることなどをお話しし、出来る限り要望に添えるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ・入居前に困っていることや意向、要望等を伺いし、ケアプランを作成している。ご家族との会話や情報提供により出来ること、出来ないこと、必要な事を察知し、サービス利用も含めた支援に努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) ・ご本人の意向をお伺いし、日々の生活の中で出来ることをお手伝いして頂き、他者との関係を築けるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ・面会やケアプラン作成時に意見や要望をお伺いしている。一緒にコーヒーを飲んだり、散歩される家族様もおられる。運営推進会議、家族会やそうめん流し、クリスマス会に参加して頂き、本人を支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価) ・玄関を常に開放し、面会時間を決めずに気軽に立ち寄れる環境作りをしている。 (外部評価) 友人や遠くに住む家族の訪問があると、一緒に写真を撮り、居室に飾っている。歌の好きな利用者が多く、食事前の口腔体操後に利用者の希望を聞きながら、懐かしい唱歌と一緒に歌うようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ・利用者同士の関係を把握し、座席や散歩も考慮している。ご本人の意向をお伺いし、日々の生活の中で出来ることをお手伝いして頂き、他者との関係を築けるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・病院や他施設へ入院、転居されても、施設長や管理者が面会へ行かせて頂いたり、利用者や家族との関係を大切に出来ている。 お便りを退所された後も送らせて頂いている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ・一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、出来る範囲で添えるよう支援している。思いを聞くことができない方は、関わり中で思いをくみ取れるよう努めている。 (外部評価) センター方式のアセスメント様式を用いて暮らしの支援の希望、意向の把握に取り組んでいる。利用者別に「日課計画表」を作成してケアの統一を図っている。日々の個別記録には、利用者の言葉をそのまま記入している。調査訪問日の昼食時、利用者が選べるように2種類のドレッシングを用意していた。お茶の時間の飲物や朝の洋服選び等、利用者が選んだり決めたりできるような場面作りを行っている。	利用者一人ひとりの馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと等、暮らし方の希望、意向の情報を集積、共有してその人らしい暮らしの支援につなげてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ・アセスメントやサマリー、家族様から生活歴、生活環境、趣味、サービス利用の経過等をお伺いし、把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護計画の個別ケアで統一した支援している。心身状態は日誌、日報に詳しく記録し申し送りし、現状で出来ること、出来ないことを把握し統一した支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・ご本人や家族の意見や要望をお伺いし介護計画を作成している。通常3か月毎に見直し、予め全職員の意見を集約し、カンファレンスで現状に即した介護計画を作成している。モニタリングは毎月5日までに行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者の日々のケアについて、職員個々に意見を書き出して、担当者に提出し、担当者と計画作成担当者が話し合っ て計画を作成している。介護計画は、日々の介護記録に差 し込み、計画に沿った支援や記録ができる仕組みを作っ ている。月1回、職員で話し合っ てモニタリングを行い、3ヶ月毎 や状態変化時に見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・日々の様子や介護計画に沿ったケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・ご本人の状況に応じて、ご本人、家族様、医師と相談・連携し、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>・運営推進会議で地域の方に行事等の情報を頂いて、盆踊りや秋祭りへ参加している。 ・地域のボランティアグループ(歌声クラブ・アロマセラピー)や、小学生との交流を楽しみにされておられる。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) ・ご本人、家族様の意向でかかりつけ医を決めておられる。毎年の健康診断や2週間に1回の受診・往診があり、緊急時は24時間体制で対応して頂いている。他の病院受診時は情報提供書を作成し、適切な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 不穏等がある場合、本人の状態をかかりつけ医に報告しながら、職員も不穏の原因を探ったり、対応方法等を勉強して、総合的な支援に取り組み、減薬や短期間の内服に留める支援を行っている。歯科は、訪問診療を利用している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) ・体調の変化や気づきは看護師に相談し、早期発見に努め、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) ・入院時は情報提供を作成し、適切な治療を受けれるよう支援している。病院関係者と情報交換や情報共有を行い、利用者の状態把握に努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) ・契約時に重度化や終末期に向けた方針について説明し、ご理解頂いている。状態の変化は早期にかかりつけ医・家族様と話し合い方向性を検討している。	
			(外部評価) 現在は、利用契約時に、重度化した場合について家族等と話し合っており、現在、半数の方は特養等の他介護施設に申込んでいる。事業所では「看取り指針」を整備し、管理者や職員は「看取り介護」の外部研修に参加する等して、体制作りをすすめているところである。管理者は「本人や家族の希望があり、状況によっては支援する事もある」と話していた。又、職員は「看取りまで支援してみたい」と話していた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ・全職員が定期的に急変時の対応・心肺蘇生・AEDの使用 方法や初期対応の訓練を行っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) ・職員、利用者全員参加で年2回消防訓練を行っている。万が一に備え、全職員が定期的に急変時の対応・心肺蘇生・AEDの使用 方法や初期対応の訓練を行っている。また、水・食糧・紙おむつ等の備蓄を定期的に確認し備蓄品の改廃に努めている。 (外部評価) 運営推進会議と避難訓練を併せて行った際には、地域の方や家族にも参加してもらった。又、会議時には、地震や津波の災害対策等について話し合ったり、「事業所を災害時の一時避難場所として利用できる」ことを伝えている。管理者は今後、災害時は利用者だけでなく、近隣の方の避難方法も会議等で一緒に話し合っていくことで、協力体制を築いていきたいと考えていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 声のトーンに気をつけ自尊心を傷つけないような声掛けを心掛けています。スピーチロックや馴れ馴れしい口調に気を付けているが、不適切な言動があれば注意し合える環境作りに努めている。 (外部評価) 職員は、昨年度の接遇の取り組みから「声かけ一つで利用者の表情が良くも悪くもなり、職員は環境である」ことを学んだ。調査訪問時、職員は笑顔で丁寧な言葉や対応を行っていた。散歩時、他利用者の車いすを押す等、利用者同士で助け合えるように支援したり、洗濯物を干す・たたむ等、それぞれの力を発揮できるような場面作りに取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) ・理念に掲げているように日常生活の中で、パンや飲み物選んだりして頂いているが、自己決定が難しい方は選択肢を作り、ご本人に選んでいただくようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事、散歩、入浴は1人ひとりのペースや体調を配慮した支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 入浴時は季節に合った衣類を一緒に選んだり、髭剃りの声掛けをしている。また、ご自身で整容が難し方は支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) ・日曜日の昼食は《希望メニューの日》とし、毎週利用者様1人に好みの食事メニューを伺い、それを提供するようになっている。利用者様は大変楽しみにされておられる。一人ひとりのペースや食事量、食事形態により、ご自分の力で食べれるよう支援している。台拭き、食器拭きを日課とされている方もいらっしゃる。 (外部評価) 週3日は、業者が立てた献立で食材が届き、他の日と朝食は、ユニット別に職員が献立を立て買い物に行き、調理している。定期的健康診断結果をもとにして、利用者には不足しがちな栄養素を把握し、食材を選んでいる。日曜日の昼食は、利用者の「希望メニューの日」で、利用者の中には、料理の本を見ながら楽しみに決める方もある。調査訪問時には、下膳する利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) ・週3回は管理栄養士によりカロリー計算されたメニューの食材配送を利用し、他の日は旬の食材を利用したメニューを心掛けている。麦茶はいつでも飲める環境にあり、食事量、食事形態も一人ひとり配慮して支援をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ・ご自身で歯磨きできる方は声掛けし、難しい方はご自身で磨いた後、仕上げ磨きの支援をし口腔内の状態もチェックしている。義歯の方は週間に1回、義歯洗浄を行い清潔保持に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) ・排泄の意思がない方は時間でトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を活用し、便秘傾向な方は、朝食後ゆっくりと座って頂き、腹部マッサージを行いトイレで排泄できるよう支援を行っている。	
			(外部評価) カンファレンス時に、個々の紙パンツやパッド使用の必要性や適切性について話し合い、一人ひとりのその時々状態に合った支援に取り組んでいる。状態が改善して、紙パンツから布パンツに変更となったような事例もある。現在、日中は、全員の方がトイレで排泄できるよう支援している。自分でパッド等の始末をする方もあり、トイレの中には、新聞紙と汚物入れを設置している。トイレのドアに、表裏に赤い紙に「入ってます」青い紙に「あき」と書いた札をぶら下げてあり、利用者が使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) ・毎日、緑黄色野菜か根菜類の提供を心掛けている。運動においても毎日の散歩やラジオ体操を行っている。水分の補給も定期的に行っているが、場合によっては追加の水分を摂って頂いている。・排泄チェック表を活用し、個人の状態を把握している。便秘傾向の方は、朝食後にゆっくりと便座に座って頂き、腹部マッサージを行い排便を促している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ・曜日、時間帯は決めているが、順番は公平感を出せるように順次変更している。体調やご本人の希望も考慮している。	
			(外部評価) 日曜日以外は毎日お風呂の準備をしており、個々に週3回の入浴を基本に支援している。浴槽のまたぎが困難な方は、本人の状態により二人介助で浴槽の出入りを支援したり、足浴しながらシャワーを浴びられるよう支援している。季節によって柚子湯や菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状態に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) ・個人の状態に合わせて、夜間にゆっくり休めるよう支援している。昼夜の逆転に繋がらないように塗り絵、貼り絵、合唱などして離床時間が長くなるように促している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ・服薬マニュアルを作成し、全職員が徹底している。処方箋を確認し、服薬後の症状の変化、状態は記録に残し申し送りしている。全職員が情報を共有し、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ・一人ひとりに応じた役割やお手伝いをして頂いている。希望メニューを楽しみにされたり、散歩、カラオケや時代劇を観たりされ、気分転換を図れるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ・一人ひとりその日の希望に沿って、散歩に出掛けている。月に1回程度、車で外出している。、家族や地域の方協力して出かけることは出来ていない。	
			(外部評価) 調査訪問時、利用者が他利用者の車イスを押して、職員と一緒に散歩に出かけて行く様子が見られた。悪天候の日以外は毎日のように、ほぼ全員の方が散歩できるよう支援している。季節ごとの花見物やいちご狩り、ぶどう狩り、魚釣り等、計画を立てて、ほぼ毎月全員で出かけられるよう支援している。さらに、時には家族も誘って一緒に楽しむような機会を作ってはどうか。又、利用者一人ひとりの行きたいところや懐かしい場所等も探り、一緒に出かけるような取り組みも工夫してはどうか。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ・以前は小遣い程度のお金を持ち、買い物が楽しみの方がいらしたが、現在はお金を所持している方はいらっやらない。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ・日常的に希望があれば電話や手紙のやり取りができるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玄関や廊下、リビングに季節のオブジェを飾り、季節感を感じていただけるよう支援している。 ・リビングには行事や外出時の写真を掲示している。遮光カーテンで光を調節したり、温度、湿度に配慮し、居心地よく過ごして頂けるよう支援している。 ・自室が分かり難い利用者様には個々の居室がわかるように名前の表示を大きくしたり、デザインを変えたりと工夫している。 <p>(外部評価)</p> <p>居間には、観葉植物を飾り大型テレビの前にソファを並べている。調査訪問日の昼食後、自分でテレビを点けてソファに座って過ごす方がいた。西側の窓には、遮熱フィルムを貼り、日射しと暑さ対策を行っている。「トイレ」と書いた紙を立体的に貼り、利用者がトイレの場所が分かるようにしていた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・気の合った方とソファでお話しされたり、北側廊下の椅子に座れる工夫をしている。 	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ご主人のお仏壇を置いている方もいらっしゃる。 ・お気に入りの化粧品を持ち込まれている方や、外出時の写真や家族写真を飾っている方もいらっしゃる。 ・居室で居心地よく過ごして頂けるように自由に使って頂いている。 <p>(外部評価)</p> <p>入り口には、色とりどりの長めののれんを掛けている。各居室にあるコルクボードには、家族写真等を飾っている。カレンダーは、家族が持参したり、職員が準備して好みのものを選んでもらっている。受診日に印を付けている利用者があった。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・居室入口の表札はご本人の目線の高さに掲げ、柄の違う暖簾で、ご自分の部屋がわかりやすいように工夫している。トイレや浴室は廊下からわかるように表示し、玄関、廊下、トイレ、浴室には手摺を設け安全かつ自立した生活が送れるよう環境整備に努めている。 	